



嘉
102

曩^ニ所^レ臥^ル病^ニ事^少し
 承^ラす^レそれ^カえ^ニ意外
 之^レ夫^レ禮^儀之^レ最^早
 之^レ輕^快とは^存在^ス得^共
 申^ます^もな^かく^胃之^實
 身^體營^養之^源
 飽^ます^レ之^注意^ヲ加^ス
 切^異は^目下^東洋
 の^形勢^未定^ス
 尊^兄之^實我^帝國
 の^重鎮^厚く^自愛
 所^攝美^切祈^望
 之^浩氣^擴充
 無^内外^言一^疾

飽まゝしつ注意の加

切異仕も目下東洋

の形勢未だ定まらず

尊兄、實に我帝國

の重鎮厚く自愛

所攝美意切に祈望

仕も浩氣擴充

無内外とは言へ疾

慎まざる可らず亦

日、の保養之際餘り

長坐五法を之に後

悔仕も然し不相濟

種々

高教を蒙りて感謝

其、七の頃より轉地

歳末閑裡仕も本年

の提擲の盛況を以て

先、大過なく恒歳

を返りませし海謝は

是も國の為め自重

所禱も也、擲筆

頓首、持

種々

高教を蒙りて感謝

其^も廿七の頃より轉地

歳末閑裡候も本年

の提擧の盛隆と以て

先^こ大過なく恒歳

を^と送ります事^に深謝候

是^もも國の爲め自重

所^に禱^も也^に摺^り筆

頓首^に拝

十二月廿四夕

貞彬

大隈公^先先生

梧^右